

⑰ 出国者数 2位は下関港

25年1月17日掲載

今年は、伊藤博文ら長州ファイブの英国渡航から150年目に当たります。当時は困難な旅であったと伝えられていますが、現代では海外旅行が気軽に楽しめ、年末年始に海外へ旅行された方も多いのではないのでしょうか。

山口県の出国者数は、観光やビジネスなどで増加傾向にあり、海外の文化や生活を直接体験する機会が増えています。

法務省の出入国管理統計によると、平成12(2000)年の12万8167人をピークに、平成15年にはSARS(重症急性呼吸器症候群)の流行などで減少したものの、近年は10万人前後で推移しています。

本州から大陸への最短距離に立地する下関港は、国内最大の国際フェリー基地(3航路11便)です。わが国初の国際定期フェリー航路である関釜フェリーをはじめ、中国へも定期就航しており、観光・物流の玄関口となっています。

2011年の出入国管理統計では、下関港を利用した出国者数は2万720人で、外国貿易のために使用する海港全体の10.5%を占め、博多港に次いで2番目に多くなっています。

県内にいながら海外の文化や生活を知る機会もあります。県国際交流協会では、宿泊を伴わない「留学生ホームビジット交流」などを通じ、ホストファミリーと留学生とが一般家庭と一緒に食事をしたり、会話を楽しんだり、自由な交流を重ねる事業を行っています。

また県では、国際交流員(出身国・米国、中国、韓国、スペイン)を配置して、交流員らの母国の生活文化や習慣などの紹介を通じて、地域の皆さんとの交流や国際理解のお手伝いをしています。

異文化との出会いや多様な国際交流を通じ、諸外国を理解することで、山口県の歴史・文化を再発見してはいかがでしょうか。

